

「学校教育目標」

視覚に障がいのある幼児児童生徒にとって豊かな教育環境を創造し、個々の発達の段階に応じた教育を行い、社会の一員として人や自然と豊かに関わり、希望をもってたくましく生きる人を育てる。

・かしこく ・ゆたかに ・たくましく

豊かな人間性

- ・自分の思いを表現し、相手の考えを受け止めることができる。
- ・周りの人と協力する。

健康・体力

- ・継続して運動に取り組み、体力を身に付ける。
- ・望ましい生活習慣や食習慣を身に付ける。
- ・自分の視覚や健康状態を知り、維持・管理に努め、よりよい生活環境を整える。

資質・能力の育成

何ができるようになるか

○学校教育の基本

- ①学習したことや体験したことを生かす。
- ②自分の思いや考えを表現する。
- ③粘り強く最後まで取り組む。

何が身に付いたか

- ①学んだことを学習や生活のどの場面でどこを生かしたらよいか考えている。
- ②自分が感じたこと、考えたことを相手やTPOに応じた表現方法で伝えている。
- ③活動に見通しをもち、やり遂げるにはどうしたらよいか考え、意欲的に行動している。

子どもの実態

- 周りの人の話を受け止めて行動しようとする素直さをもつ。
- 明るく元気に挨拶ができる。
- 生活経験が不足している。
- 気持ちや考えを表現し、伝えることが少ない。

子どもの発達を どのように支援するか

障がいの状態に応じた子どもへの支援

- 一人一人の子どもの良さや可能性を、把握し伸ばす指導・支援に努める。
- 家庭や関係機関等と連携して、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた教育を行う。
- 教職員間で情報共有を行い、連携・協働して指導・支援に当たる。

目指す子どもの姿

- 進んで学び、自ら行動する子ども
- 体力や根気のある子ども
- 思いや考えを伝え合える子ども
- 周りの人と協力し合える子ども

何を学ぶか

○教育課程の編成

- ①各教科等で身に付けるべき力や基本的な生活習慣を身に付ける。
- ②概念の形成を養い、言葉を正しく理解して活用し、感じたことや考えたことを、様々な方法で表現する。
- ③時間や空間の概念を養い、見通しを持って活動する。

どのように学ぶか

○教育課程の実施

- 保有する感覚を十分に活用し、基礎的・基本的な事項の着実な習得を目指した教育活動。
- 「帯盲スタンダード」に基づき、各教科等で相互に連携した学習活動。
- 地域社会や資源を活用した体験活動。
- 主体的に目標や計画をたて、振り返ることができる行事や学習活動。

実施するために何が必要か

○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 「帯盲スタイル」を基盤とした授業づくり・舎指導の推進。
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用した家庭、関係機関等との連携強化。
- 校内外における交流及び共同学習の一層の推進。
- 地域リソースの活用や地域の諸団体との情報共有の促進。

安全・安心を守る

- ・様々な災害や状況に対応した避難訓練の実施。
- ・よく見て触ることができる教材教具や、環境の整備。
- ・社会的な諸問題から自らを守ることでできる指導。
- ・家庭や医療と連携しての健康管理。

開かれた学校づくり

- ・道東地域の視覚障害教育に関するセンターの機能の発揮。
- ・他校や地域の施設等との交流や共同学習。
- ・地域ボランティアの活用。